

第11回市民自治推進委員会 会議録（平成28年3月29日）

| 発言者 | 発言内容等 |
|-----|---|
| | 開 会 委員長あいさつ |
| 事務局 | 事務局による審議事項1 地域コミュニティ活性化事業の今後の展開について説明。 |
| 委 員 | 豊岡地区は新しい住宅が建てられており、若い人が多く子育て世代の家庭も多い。 |
| 事務局 | 豊岡地区は、新しいアパートやマンションが増えて、新しい地域住民も多く、従来住んでいた住民とコミュニケーションが取りにくくなっており、今後の課題としてアンケートと書かれていた。 |
| 委 員 | アパートには広報誌は配られているのか？ |
| 事務局 | 基本的に各戸配られている。 |
| 委 員 | 今回のアンケート結果で見えてくる課題はたくさんあると思う。最初のモデル事業であるからうまくいかないこともあって当然である。先生のいう解決への「きっかけづくり」が出来始めているのではないかと思う。私は当初、地域をまとめることは非常に難しいと思っていた。担当職員の方々が色々な努力をされた結果だと思う。これから継続していくべき事業だと感じる。これから事業を行う地域は、この前例を四国中央テレビで見て参考にしていけると思う。 |
| 委 員 | 調査結果から、事業に参加している方の男女比はほとんど半分位だが、リーダーや旗振り役は男性が多く女性が少ない。もう少し女性の割合が増えると面白くなると思う。 |
| 委 員 | アンケート結果から、前向きな意見も沢山寄せられている。今後、2年、3年と続けていけば、もっと地域の皆さんと職員との絆が繋がると思う。地域ごとの独自の手法で活動していけるのではないかと思う。 |
| 委 員 | この事業の今後は更新していけるのか？ |
| 事務局 | 地区コミュニティ計画は、基本的に5年間の計画を策定することになっている。モデル事業では2年間としているが、継続できる方向で検討している。 |
| 委 員 | コミュニティの再生には時間がかかると思う。事業を進める上で、結果「わからない」に結びついて「自分達で考え自分達で活動できる」ということを、まず知ってもらわなければ進められない。事業を続けることでわかると思う。最初の住民集会の回数を増やせばもっといい結果が変わってくるのではないかと思う。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 事務局なりに、アンケートをまとめていくとPR不足を痛感している。「事業を知らなかったので参加しなかった。」という意見が多かった。継続して周知できる体制も必要と感じた。急にイベントの案内だけをして興味をもってもらえない。 |
| 委員 | 宣伝が確かに足らなかったと思う。先日の事例発表会をコスモステレビでずっと流しっぱなしにしたら周知が図れるのではないか。テレビを観て、普通の方が「じゃあ、僕らもやってみようかな」という人も出てくるかもしれない。 |
| 委員 | 再生というほど大げさなものではないが、自治会で事業を行えば、同じ顔ぶれになるので、勝手に私がプロジェクトを作ってみた。「独断で指名しますから協力してください。」と女性の方を多く指名した。そうすると、その周辺の方々もよく動いてくれて、「来年は私達がやります」と自ら動き出してくれた。プロジェクトというほど大げさなものではないが、誰かが指名してお願いするような形をとれば、いつもと違う方々も活動してもらえる。特に女性の視点は大切だと思う。寺や神社の総代も同じ人が何年もしていることはよく聞くが、工夫が必要である。 |
| 事務局 | 審議事項2協働のまちづくりに関する基本指針（仮称）の策定について説明。 モデル事業は、一応2年間で終わる訳だが、これを延長するか？終わらせて拡大か？皆さんのご意見をいただきたい。 |
| 委員 | 指針作りも良いが、コミュニティ活性化事業を続けていくことが「協働のまちづくりに繋がっていくと思う。市も住民も初めてだし、まだ我々は経験値が浅いと思う。モデル事業を継続的に取り組んでいくことでそれぞれが学んでいくと思う。 |
| 委員 | 積極的に「この地域でコミュニティの地域作りをやってみたい」という希望があれば、同じ手法でやってみたらいいと思う。自治会を育てて、計画立てて事業をするべきである。自治区では自治会を組織していくが、四国中央市は地域コミュニティ協議会を進めて補助していけばいい。 |
| 委員 | 地域コミュニティ活性化事業は、色々な地域の団体を包括するようなイメージがすごくある。一般の方もそういうイメージを持たれると思うし、良いと思う。このモデル事業は、今後も継続して広げていかないとこの2年間の補助が無駄になる。どんどん今の地域が行く方向を固めて行ってやればより成果が出る。 |
| 委員 | 私も川滝の住民集会に参加したが、修正すべき点について今回の検証結果報告書でかなり見えてきていると思う。これを踏まえて、他の地域に繋がってくれたらいい。 |
| 委員 | モデル事業の3つの地域だが、川滝が「山」、蕪崎が「海」、豊岡が「海と山」という四国中央市の風土的な地域を選定されたのではないかと思う。実際は「2年やってちょっと疲れた休みたいなあ」という地域もあろうかと思う。これは休んで貰って構わないと思う。だが、他の地域は1回も事業をしていないわけだから、まず募集して6地域、9地域と広めていけば差が歴然とすると思う。3つより6つの地域であればまた色々な考え方が出る。1度には難しいと思うので少しでも増やしていけたらいいと思う。補助金額は人口に比例して出すべきだと思う。長い目で見ればそういった地域割は必要に感じる。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 当該事業はどんどん進めるべきだと思う。これまでのモデル事業を次にどうあるべきかが重要である。直ぐに本事業をやることは難しい。国体も控えており、協力団体には、各公民館、各団体等も取り込まれている。時期的には難しい問題も出てくると思う。もう1回モデル事業を数地区で行い、更に熟成された上で地域活性化事業の本事業に移る方向でいいのではないかなと思う。各公民館には事前にする・しないのアンケートをとってみてはどうかと思う。 |
| 委員 | 3地区の発表を聞いてみて非常によかったと思う。初めは手を上げにくかったけども、「これならできるかな」と思っている地区もあると思う。例えば防災用のヘルメットを住民に配るとしてもやはり予算が必要になる。事業をしたくない人もいるとは思いますがゆくゆくはいろんな取り組みもできるし、経験を積んでいける事業だと思う。この検証結果を読んで今後の課題も多くあるが、この回答が協働の指針になるのではないかな。 |
| 委員 | モデル事業をした後は水平展開すると思っていた。公民館長の話では、「やらされる位でないとできない。」が、今の業務量から考えると中々難しいところもある。そういう意味では、新たなリーダーの育成が必要である。また、このアンケート結果にも出ているように、公民館単位で事業をするにしても、住民の人数はかなり多い。住民皆参加型にするためには、もう少し小さい単位で落とし込むべきではないかなと思う。 |
| 委員 | 今モデル事業を3地区で行ってきたが、事業実施するにあたり、果たしてこの1年だけの検証でいいのかなと思う。もう1年モデル事業をしてみてはどうか。来年は国体も控えており、民泊の受け入れもあって公民館は忙しくなる。そういう意味でも検討の年としてもいいのではないかな。 |
| 委員長 | 事務局から説明があったように、ある意味この国体を契機にコミュニティが活性化するチャンスともいえる。忙しくても前向きに取り組んでいただきたい。特にこのアンケートで住民と担当職員が協力して運営できたことが一番大きな結果だと思う。これまでの行政は、福祉や産業の分野では手厚いところはあるが、住民と一緒に作り上げて行く事業は初めてではないかな。まさに協働のまちづくりが取り組み始められた第1歩だと思う。そういう意味で委員の皆さんからは是非継続してほしいという意見になったと思う。 |
| 事務局 | 協働事業と協働のまちづくりの基本指針の部分は、市民と行政と一緒にタイアップしていくまちづくりである。まちづくりといっても、イベントから福祉分野まで多岐にわたると思う。そういう部分を補完するようなあり方を検討したいと思う。例えば、お金だけでなく市の機材を貸し出すような制度が必要になる。今までに無い市民の活動を応援するために必要な事も取りまとめながら、協働のマニュアル作りをしたいと考えている。 |
| 委員長 | それではその他についてご意見はないか。 |
| 事務局 | 本事業に移る前に課題を解決した形で事業展開していきたい。2年前に提言をいただいているので、その提言に対する進捗状況をご報告させて頂く機会も設けたい。次回会議については6月に開催したいので御協力頂きたい。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | モデル事業に関しては継続してもう1年進めて行く。本格展開は国体が終わってから具体的に協議をさせて頂く形でのよろしいか。 |
| 委員 | 「はい」(委員全員) |
| 事務局 | 本格展開する時でも一律一斉には中々いかないと思う。課題を少し修正して制度設計を見直し、金額や人口割り等も視野に入れたいと思う。なるべく早めに各公民館を廻って協議をしたいと思う。国体の受け入れを、いわばコミュニティ活動のひとつと位置づけ、設計次第でその経験が今後のコミュニティ活動に繋がっていくと思う。 |
| 委員長 | <p>石畳地区の水車まつりでは、地区の半分以上の人が参加している。それがひとつのコミュニケーションである。こうしたイベントをすると必ず一緒に話す機会がある。また、お祭をすると一定の収益が出て、その収入でまた基金を貯めることができる。それがコミュニティ活動や自治会活動の財源にもなっている。この形になってくると自治会が自主的に活動されていくことが多い。</p> <p>できるだけ稼ぐ力をコミュニティで作って頂き、目的意識を兼ね備えた制度設計に配慮していきたい。</p> <p>終わり</p> |